

項目	No.	重点目標	具体的取り組み	評価の観点	評価者	目標指標	目標指数	前期指数	後期指数	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価
確かな学力	①	基礎基本の徹底	細呂木タイム等で、国語や算数の基礎的な学力の定着を図る。	細呂木タイム等で、国語や算数の学習の時間を確保している。	教師	取組指標	90	100	100	年間を通して継続したことで、児童の学力も少しずつ定着してきており、保護者の満足度も上がった。	今後も系統的にドリル学習等を計画・実施し、基礎・基本を定着させていく。また、細呂木タイム以外でも基礎を大切に授業づくりに励む。	○細呂木タイムの詳細がわからないが、よく子どもから話が出てくるワードなので、興味があるのだと思う。 ○読書について 親の評価が低いことについて、平日のチェックがどうしても不足してしまう、子どもが読書している姿を見ることができていない、読書した本についての話をしていない、などの課題が挙げられる。 本来、自主性が必要なことなのだろうが、最初は教員側から目標設定（○ポイント取ろう等）をしたら。最初は恣意的であっても、繰り返されることで、読書の面白さを感じるようになってくる。 読んだ後の対応が必要。「どんなことを思った？」などと、読後の感想を家庭や学校で聞いたり、長期休業で読書をしたら、休み明けに読んだ本についての発表をしたりと、工夫することもできるのでは。読ませっぱなしではダメ。 我が家ではタイマーを使っている。違う方法があっても良いと思う。
				細呂木タイム等で国語や算数の基礎的な学力の定着を図っている。	教師	取組指標	90	100	100			
				細呂木タイム等で、国語や算数の学習に頑張っており取り組んでいる。	児童	成果指標	80	100	100			
				学校が児童に対して実施している国語や算数の基礎学習の取り組みに満足している。	保護者	満足度指標	80	83	95			
	②	話す・聞く力の育成	児童が自分の考えを話したり、友だちの考えを聞いたりする活動に取り組む。	児童が自分の考えを話したり、友だちの考えを聞いたりする活動に取り組んでいる。	教師	取組指標	90	100	100	自分の考えや思いを自分の言葉でも設定し、継続して帰りの会や行事の感想発表等を設定して取り組み、さらなる向上を目指す。	伝える場や受け止める場を今後も設定し、継続して帰りの会や行事の感想発表等を設定して取り組み、さらなる向上を目指す。	
				自分の考えを話したり、友だちの考えを聞いたりすることができている。	児童	成果指標	80	99	100			
	③	主体的・対話的学び	主体的・対話的で深い学びを意識した授業を行う。	主体的・対話的で深い学びを意識した授業を行っている。	教師	取組指標	90	88	89	タブレット端末を活用して意見共有する場が増え、対話的な学習ができるようになってきている。しかし、家庭学習の指数は微減し、自主的な家庭学習の習慣がまだ身に付いているとはいえない。	自分に合った学習を自分で考え、自主的に家で学習に向かう習慣をつけるためには、保護者に協力を懇談会等でお願います。	図書室で校長にお勧めの本を紹介したとうれしそうに話すことがあった。そういう関わり方を先生と子どもができるとうれしいと思う。 数字を上げることが目的ではない。家庭でのコミュニケーションや対話の充実を促すことで自然と評価も上がってくると思う。 「評価の観点」がズレているのでは。これを同一にすることが大切。 「定着」するために「時間」「冊数」を評価の観点にするのは無理があるように思う。他の手立てを工夫したら。児童や教員の努力が報われる内容が良いと思う。
				自分の考えと比べながら友だちの考えを聞いて、自分の考えを深めることができている。	児童	成果指標	80	97	99			
				子どもは、自主的に家庭学習に取り組んでいる。	保護者	満足度指標	80	77	73			
	④	読書習慣の定着	図書館との連携、親子読書やおうち読書、読書貯金ノートなどの活動を推進させ、読書習慣の定着を図る。	親子読書やおうち読書等、読書習慣の定着につながるような手立てを取っている。	教師	取組指標	90	100	100	児童の指数は改善傾向だが、保護者の指数が伴わないのは、保護者が実態を把握できていない可能性がある。	読書習慣の定着に関しては、児童によって個人差があるので、休日30分の確保が難しいのではないかと。一概に平日10分、休日30分と設定するのではなく、各家庭で取り組みやすい目標を相談して設定するとよい。	○「話す・聞く力の育成」の評価指数が高いことは良い。将来にわたって人の意見をちゃんと聞き、自分の意見を堂々と発信できる人間に成長させていってほしい。 ○タブレット活用について、児童間の能力の差は大きいかな。 →児童はすぐ覚えてしまう。PCより使いやすく、6年生を送る会の映像等は、児童が自ら作った。 ○タブレットにより、人に伝える能力、わからないことを自分で調べ学ぶことにも活用できていて、自分で学びを広げたり、そこから一歩踏み込んで、考えることに役立っていると思う。
				平日10分、休日30分以上、本を読むことができている。	児童	成果指標	80	91	95			
	⑤	ICTの活用	ICTを活用した授業に取り組む。	授業力の向上と授業改善のために、効果的にICTを活用している。	教師	取組指標	90	88	100	児童がタブレット操作に慣れてきたので、学年に応じてできることが増えてきた。	ICTやタブレット端末の活用が効果的な場面で、今後も継続的に活用していく。	
ICTを使った授業で、学習内容がよくわかった。				児童	成果指標	85	99	100				

項目	No.	重点目標	具体的取り組み	評価の観点	評価者	目標指標	目標指数	前期指数	後期指数	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価
豊かな心	⑥	対人関係能力の育成	あいさつ運動で個々の振り返りと評価を行う。 ソーシャルスキルトレーニングを学活や道徳の時間に取り入れ、学級内でのよりよい人間関係づくりに生かす。	気持ちの良いあいさつ、正しい言葉づかいや相手のことを思いやる言葉づかいができる子を育てるための指導をしている。	教師	取組指標	90	100	100	多くの児童が明るく挨拶をするようになり、学校生活を楽しいと感じていることがアンケート調査で明らかになった。まだ積極性に挨拶できない児童もいるので、全員が明るく積極的な挨拶を習慣化できるよう、更なる手立てが必要である。 ソーシャルスキルトレーニングの実施により、児童同士のコミュニケーション能力が向上し、より良い人間関係を築くためのスキルを習得していることが感じられた。多くの児童は相手の気持ちを考えながら行動できるようにになっているが、自分の意見を積極的に伝えたり、他者との関わりを積極的に求めることに抵抗を感じる児童も一部見受けられる。個々の児童の性格や特性を踏まえ、自己表現や積極的な関わりを促す指導が必要である。	今後も継続的にソーシャルスキルトレーニングを実施し、児童の対人関係能力の向上を図る。トレーニングの内容は、児童の成長段階やニーズに合わせて定期的に見直し、より効果的なプログラムを開発する。 ロールプレイングやグループワークなどのアクティビティを取り入れ、児童が自分の意見を自信を持って伝えられるようサポートする。 少人数のグループ活動や個別指導を通して、児童一人ひとりの個性やニーズに合わせた指導を行う。 明るい挨拶ができるようになるために、挨拶運動を委員会活動と連携させ、児童が主体的に挨拶の習慣化に取り組めるようにする。	○児童は仲が良い。地域の活動中でも、人見知りせず気さくに声をかけてくれる。友だちをやさしく手伝う姿が見られる(スキー教室など)。→子ども園の頃から身に付いている。 ○中学校でやっていけるか、心配。連合運動会のような学校を超えた交流により、身に付けられる力もあると思う。 →スポ少での活動は、役に立ってくる。 →授業で、Zoomを利用した交流も行う予定。 →次年度、あわら市でスポーツ交流会を実施する予定。 ○異年齢の関わりがとても素晴らしい。上級生が下級生へとても優しい、失敗しても広い心で受け止めている姿が見られた。細呂木地区の人柄の良さと団結力を感じている。 ○様々な活動を通して、大人と子ども、学年、性別の壁を無くして活動できていることで、偏見、思い込みがなくなり、どの人へも分け隔て無く接することができ、思いやりがあり、しっかりと意見が言える子どもへと成長していると思う。 ○教師、児童、保護者とも、「同じ目標」に向かっての実践として捉えられ、各指数も高指標をキープしている。 ○「心」に関わるファクターの評価が高いことが非常に喜ばしい。
				学校・地域・家庭で、明るいあいさつや正しい言葉づかい、優しい言葉づかいができています。	児童	成果指標	80	97	98			
				子どもは、明るいあいさつや正しい言葉づかい、優しい言葉づかいができています。	保護者	満足度指標	80	88	99			
				ソーシャルスキルトレーニング等を実施し、子ども同士のよりよい関係づくりに努めている。	教師	取組指標	90	100	100			
				学校が楽しい。	児童	成果指標	80	95	99			
				子どもは、学校へ通うのが楽しいと感じている。	保護者	満足度指標	80	92	97			
				道徳の授業や学校生活を通して、いじめや差別を許さない指導をしている。	教師	取組指標	90	100	100			
				相手の気持ちを考え、相手が嫌がることをしないようにする	児童	成果指標	90	95	96			
				学校は、子ども一人一人を大切にしている。	保護者	満足度指標	90	95	99			
	⑦	社会性	縦割り班活動、体験活動等を通して、人権意識、思いやり、認め合う心等を育む。	学活や道徳の時間、縦割り班活動、体験活動等を通して、自主的に活動し、協力し合うことやお互いを思いやる心を育てるための学習を心掛け	教師	取組指標	90	100	100	縦割り遠足、球技大会、運動会では、下級生に優しく接する児童が多くおり、みんなで楽しく活動する様子が多く見られた。これは、上級生が下級生に積極的に声を掛け、手助けをする姿が伝統として受け継がれていること証とされる。 また、年間通じての地域学習の機会も多く、地域の人たちとの交流も活発になっている。	縦割り班での活動内容を今後も大切にし、児童同士が協力し合い、互いを認め合う機会を増やす。 また、地域の人との交流を深める地域学習がさらに意味深いものになるように、児童の興味や関心を引き出す工夫が必要である。	
				縦割り班活動では、小さい子に優しくできる等、人を思いやる気持ちを大切にしている。	児童	成果指標	80	100	100			
				学校での縦割り班活動、体験活動等は、子どもの協力する心や思いやりの心を育てるのに役立っている。	保護者	満足度指標	80	100	96			
	⑧	チャレンジ精神の育成	目的意識をもって、あきらめずにチャレンジする心を育む。	目標設定、振り返りをさせ、達成感を味わえる活動を行っている。	教師	取組指標	90	100	100	行事ごとに目標を設定し、達成に向けて努力する取り組みは、チャレンジ精神の育成に効果的であった。保護者の方からのコメントも子どもたちに励みとなっている。	子どもたちが主体的に目標設定に取り組める環境づくりをするとともに、子どもたち一人ひとりに寄り添い、効果的な目標設定を支援する。	
				目標をもって、いろいろな活動に取り組んでいる。	児童	成果指標	80	100	100			
				子どもは、目標をもって活動している。	保護者	満足度指標	80	88	92			

項目	No.	重点目標	具体的取り組み	評価の観点	評価者	目標指標	目標指数	前期指数	後期指数	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価
健やかな心と体	⑨	基礎体力の向上	体育の授業や細呂木タイム(週2回、マラソン、ドッジボール、キックベースボール、縄跳び等)において体づくり運動の強化及び基礎体力の向上を図る。	体育の授業や細呂木タイムで、めあてをもって取り組ませ、体力向上を図っている。	教師	取組指標	90	100	100	体力向上の取組、学年通信やHPでの連絡、振り返り用紙(めあてを立て、家庭からの励ましの言葉をもろう)などの取組により、効果が出ている。	引き続き、めあてをもたせたり、マラソンやなわとびカードに書かせたりして、体力向上について、意識させる。	○スポ少や学校行事で細小の子どもを見ていると、他校と比べて比較的体力があったり、運動能力が高いと感じることが多い。現在の取組の継続を。 ○「心」の面で、がんばってもなかなか伸びず楽しくないと思う子ども少しばかりいると思う。がんばった内容を評価していただき、長い目で見守っていただきたい。 ○教員評価が71%から100%になっているのは、どのような指導があったのか。→特にない。分母が小さいので、数人低い評価をすると、大きく変わってしまう。 ○分母を教えてください。 →教員12人、児童86人、保護者70人後半(詳細は?) /86人 ○「人に相談することが苦手な児童がいる」とあるが、学校側で把握しても思うので、悩みや相談事を抱えている様子に誰かが気付いてタイムリーに情報共有できると良い。 ○話すのが苦手な児童に対して、教師と児童で交換日記等、書面でケアするような対応も試みてはどうか。 ○何か問題が起こったときに見えていない部分が出してくるので、学方面、人間関係、家庭生活の中で我慢している悩み事を話せる関係作りを、今後も丁寧に対応して行ってほしい。 ○給食を実際に一緒に食べさせていただくことで、子どもたちの様子がわかりました。コロナ等のももあるかもしれないが、給食でもっと楽しかったイメージがあり、静かに食べている子どもたちの姿を見て、少し淋しかった。程よいにぎやかさで食べることも食の楽しみだと思った。
				体育の授業や細呂木タイムの体づくりにより、めあてをもって取り組んだ。	児童	成果指標	90	100	100			
				昨年または年度初めのころと比べ、(体育の授業や細呂木タイムでマラソン、ドッジボール、キックベースボール、縄跳び等を行い)子どもの	保護者	満足度指標	80	93	90			
	⑩	心身ともに健康な体の育成	「いじめ防止基本方針」に基づき、「心のアンケート」や「教育相談週間」を活かして子どもの心を把握し早期対応を行うとともに、月1回のアンテナ会議及びその後の対策会議の実施で問題の早期解決を図る。	心のアンケートや教育相談週間を生かして、問題行動の未然防止と早期発見・早期対応・事案対処に努めている。	教師	取組指標	100	100	100	学校では、いじめ未然防止や早期発見等に努めており、悩み事をすぐに教師や家族に相談できるように配慮している。また、年3回のアンケートや教育相談週間の実施により、問題の早期発見に努めている。 人に相談することが苦手な児童がいる。	今後も、常にいじめ対策チームを組織運営し、全体で児童の状況把握に努め、チームで対応する。 日頃から学校、学級で話しやすい雰囲気づくりに努める。 教師の目に見えないところで起きていることや悩みを打ち明けられない児童について情報収集し、早期発見・解決できるようにする。 スクールカウンセラーと連携を図り、児童の様子を把握してもらい、多角的な児童理解に努めていく。	
				学校で嫌なことや困ったことがある時は、先生や友だち、家族に相談し、悩みや問題を解決することができる。	児童	成果指標	95	96	96			
				我が子に関して、学校と連絡(家庭訪問・連絡帳の活用含む)を取り合い、子どもを安心して送り出すことができる。	保護者	満足度指標	95	95	100			
	⑪	生活習慣(食育を含む)	日常的な健康習慣づくりを継続する(給食の時間、栄養士訪問、清潔チェック等)。	日常的な健康習慣づくりの指導をしている。	教師	取組指標	90	71	100	児童の健康習慣はほぼ身につけている。健康習慣づくりのために、教員が意識的に児童への声かけ・指導を行うようになった。1月からランチルーム給食に変わり、今後の児童の歯磨きの取り組みが危惧される。	引き続き、教員による声かけ・指導を継続していく。児童が今後も歯磨きを確実に続けていけるような取り組みを考えていく。	
				朝の清潔検査・歯みがき・食のマナーを守ることができた。	児童	成果指標	80	99	100			
				子どもには、学校での日常的な健康習慣づくり(清潔チェック・歯みがき・食のマナー等)の指導が役立っている。	保護者	満足度指標	80	85	88			
	⑫	情報モラル	家庭と連携し、健全なネット利用(情報モラル含む)についてルールや習慣づくり、指導する。	家庭と連携し、健全なネット利用(情報モラル含む)についてルールづくり、習慣づくりの指導をしている。	教師	取組指標	90	100	100	長期休業中には、家庭と連携した家庭でのルールづくりや習慣づくりに努めた。	ネット利用やテレビ、ゲームの使い方などのルールについて、家庭で話し合えるような機会を定期的に設けていく。	
				ネット利用やテレビ、ゲームの時間等、約束したことを守ることができた。	児童	成果指標	80	94	94			
				家庭では、学校と連携して健全なネット利用(情報モラル含む)についてのルールづくりや習慣づくりができています。	保護者	満足度指標	80	88	94			

項目	No.	重点目標	具体的取り組み	評価の観点	評価者	目標指標	目標指数	前期指数	後期指数	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価
開かれた学校	⑬	ふるさと教育の充実	地域にある文化財や地域行事等を活用したり、外部関係機関やこども園等と連携しながら、ふるさと教育を充実させる。	地域にある文化財や地域行事等を活用したり、地域と連携しながら、ふるさと教育を行っている。	教師	取組指標	90	100	100	年間を通して、地域と連携した多くの活動に取り組むことができた。子どもたちの自主的、主体的な学びにつなげていくことができた。コロナ禍の影響も薄まり、地域行事等への参加も増えたことも、大きい要因であると思われる。	体験活動だけではなく、地域のよさに気付くような事前・事後学習を行う。	○地域の活動について 子どもをたくさん見る機会があるといい。人間関係がわかるし、あたたかい気持ちになる。 大人は子どもと関わりたいと思っている。子どもたちが声をかけてくれるとうれしいし、楽しい。 今後も継続してほしい。 子どもたちの郷土に対する理解や想いも深まり、地域の人々とふれあい、話すことで、地域や学校での安心安全につながると思う。 ○危険箇所を確認できているか。 →地区子ども会で毎回確認し、上級生が下級生に場所を教えている。 ○児童が安全に学校、地域、家庭で過ごせるように、ご指導、注意喚起、地域・家庭連携、環境整備などに尽力してほしい。 ○積極的な情報発信の満足度が窺える。 ○小学校からこども園に来て乳児と触れ合う機会もできると、命の大切さを学ぶきっかけになるのでは。 ○引き渡し訓練をこども園と共同できると地域を含めての訓練になるのでは。 ○児童がやりたい競技やおもしろい競技をスポーツ協会に提案し、地区体育祭で実施する等、児童の意見を地区イベントに反映できると地域の連携がより深まると思う。 ○人権、福祉の学習を取り入れていることはすばらしいことだと思う。また、学校で障がいのある方と一緒に過ごし、受け入れ、当たり前に関わっている姿を見て、身近に福祉を感じる学校であり続けてほしいと思う。多様性の時代を生きる子どもたちに、こうした理解が深まれば良いと思う。
				地域の学習に参加して、地域に興味があった。	児童	成果指標	80	95	96			
				子どもは、地域の学習に進んで参加している。	保護者	満足度指標	80	90	92			
	⑭	積極的な情報発信	学校からの各種お便りやホームページ等で、学校や児童の様子を情報発信を行う。	学校からの各種お便りやホームページ等で、学校や児童の様子を情報発信を行っている。	教師	取組指標	90	100	100	学年通信や学校だより、ホームページでの学校行事の様子の紹介等、保護者への情報発信を積極的に行った。特に、学年活動の様子をホームページでタイムリーに紹介することができた。保護者の満足度も高かった。	今後も情報発信を積極的に行い、家庭との連携を充実していく。学校の様子、各学年の様子がより伝わるように、ホームページを充実していく。	
				学校からの各種お便りやホームページ等で、学校や子どもたちの様子がわかる。	保護者	満足度指標	80	93	97			
	⑮	安心安全な学校作り	日常生活の中にひそむ現在および将来に直面する安全の課題に対して、自分の身を守るように、安全教育を行う。	日常生活の中にひそむ現在および将来に直面する安全の課題に対して、自分の身を守るように、安全教育を行っている。	教師	取組指標	90	100	100	前期の避難訓練（地震、火災）、交通安全教室、後期の避難訓練（不審者対応）等の実施により、災害安全、交通安全、学校安全の意識を高めることができた。また、日常の授業や生活の中で、健康で安全に生活をするように意識付けを行った。	今後も、安全に生活ができるように、学校教育全般を通して指導していく。	
				交通安全教室や避難訓練等を通して、安全に生活していこうという意識をもっている。	児童	成果指標	80	100	98			
				学校は、「生活安全、交通安全、災害安全」に対する安全教育を行っている。	保護者	満足度指標	80	93	100			